

訂正表

第2刷発行に際して、次の点を修正しました。なお、内容に影響のない修正は掲載しておりません。

箇所	第1刷	第2刷
p.2 下から7行目	「ー」の間にアクセントがあります。	「ー」の間にアクセントがあります。
p.3 下から9行目	4モーラ「びよういん」は	4モーラ、「びよういん」は
p.5 下から4行目	d. さんぜんえん (三千元)	d. さんぜんえん (三千元)
p.6 5行目 (図下2行目)	→唇、舌、歯茎、硬口蓋、軟口蓋、口蓋垂、鼻	→口唇、舌、歯茎、硬口蓋、軟口蓋、口蓋垂、鼻腔
p.9 下から2行目	硬口蓋を舌先で一回だけ	歯茎を舌先で一回だけ
p.10 下から6行目	さんま、こんぶ、てんぷら	さんま、こんぶ、てんぷら
p.10 下から5行目	b. うしろの音が歯茎 (閉鎖) 音	b. うしろの音が歯茎音
p.10 下から1行目	あんこ、だんご	あんこ、だんご
p.11 4行目	パン、こくさいせん	パン、こくさいせん
p.12 下から11行目	b. m + r → m + n	b. m + l → m + n
p.23 下から6-5行目	他動詞と非対格自動詞のペアがあることに	非対格自動詞と他動詞のペアがあることに
p.30 12行目	③そなた段階「そなた・わが身・わごりよ・おぬし」など	③そなた段階「そなた・わが身・わごりよ・おぬし」
p.32 下から10行目 ルビ	おゆどのうえのにつき	おゆどのうえのにつき
p.33 1行目	将軍家・大中小名から	将軍家・武家から
p.35 6行目	たとえば「足立区の	たとえば足立区の
p.36 10-11行目	漢語の頻度・語彙数において	漢語の使用頻度・語彙数において
p.36 下から8-7行目	これは、可能な限り漢字で書きたいという欲求であり、重箱読みや湯桶読みなどもこの時期に増加します	これは、可能な限り漢字で書きたいという欲求のあらわれであり、重箱読みや湯桶読みなどもこの時期に増加します。
p.36 下から4行目	漢語を造出したり中国語から借用する	漢語を造出したり中国語から借用したりする
p.69 下から8行目	古代語にも「くれる」	古典語にも「くれる」
p.70 下から12行目	童にまであげたので、	童にまであげたので、
p.70 下から8行目	(『うつほ物語』)	(『うつほ物語』蔵開下)
p.71 3行目	(『源氏物語』)	(『源氏物語』浮舟)
p.72 7行目	(『虎明本狂言』)	(『虎明本狂言』蟹山伏)
p.72 12行目	(『虎明本狂言』)	(『虎明本狂言』昆布売)
p.73 8行目	磯に出て網人、釣人に手に	磯に出て網人、釣人に手を
p.73 下から7行目	(『虎明本狂言』)	(『虎明本狂言』財宝)
p.73 下から5行目	(『虎明本狂言』)	(『虎明本狂言』法定)
p.75 4行目	(『源氏物語』)	(『源氏物語』明石)
p.75 7行目	(『源氏物語』)	(『源氏物語』若葉)
p.75 下から11行目	たすきやったらは、	たすきやつたらは、
p.75 下から8行目	(『虎明本狂言』)	(『虎明本狂言』杭か人か)
p.75 下から5行目	(『虎明本狂言』)	(『虎明本狂言』雷)
p.78 6行目	古代語では上位者から下位者への	古典語では上位者から下位者への
p.84 14-15行目	この変化は動詞にのみ関係することで、タリの変化には直接関わりませんが、	この変化はタリの変化には直接関わりませんが、
p.89 下から1行目	新しい形が混在する時期というのが	新しい形が混在する時期が
p.90 参考文献	井上正博 (1995) 「中古語完了助動詞の	井島正博 (1995) 「中古語完了助動詞の
p.99 5-7行目 (2箇所)	どのいい方を	どの表現を
p.100 下から8-10行目	これが、一般的に使われている「方言」という語がさすものです。生育地以外の属性によって整理される方言は「社会方言」と呼ばれます。	これが、一般的に使われている「方言」という語がさすものです。以降の章でも「地域方言」を表すために単に「方言」とだけ記します。生育地以外の属性によって整理される方言は「社会方言」と呼ばれます。
p.101 9行目	上のように一見すると	一見すると上のように

箇所	第1刷	第2刷
p.110 参考文献	庵功雄・日高水穂・前田直子・山田敏広・大和シゲミ(2003)	庵功雄・日高水穂・前田直子・山田敏弘・大和シゲミ(2003)
p.118 下から9行目	(『天草本平家物語』巻1第2)	(『天草版平家物語』巻1第2)
p.118 下から4行目	(『天草本平家物語』巻2第1)	(『天草版平家物語』巻2第1)
p.118 下から1行目	近世と考えられます。	近世と考えられます。
p.119 2行目	①の現場指示からお話ししましょう。	①の現場指示用法からお話ししましょう。
p.119 下から9行目	以下のような現場指示のソも	以下のような現場指示用法のソも
p.119 下から2行目	髑髏を1つとりいだす。	髑髏を一つとりいだす。
p.120 2行目	髑髏を1つ取り出いたれば、	髑髏を一つ取り出いたれば、
p.121 15行目	5. 古代語の指示詞	5. 古典語の指示詞
p.133 下から13行目	△系	△系統
p.133 下から12行目	◇	⊕
p.133 下から6行目	イカル(◇)ですが、イッキョル(□)、イカハル(△)も	イカル(⊕)ですが、イッキョル(■)、イカハル(△系統)も
p.140 下から2行目	以下の「調べてみよう!」ように	以下の「調べてみよう!」のように
p.142 下から4-3行目	変化したとされおり	変化したとされており
p.145 11行目	犬は「ワンワン」と鳴きますが、	犬は「ワンワン」と書かれますが、
p.165 下から5行目	バイト中に	アルバイト中に
p.170 表2 名詞述語の行	学生でない	学生ではない
p.176 4行目	五箇山方言の60代女性の調査	2009年～2010年に実施した五箇山方言の60代女性の調査
p.176 15行目	まとめると、	まとめると、次のようになります。
p.177 2行目	標準語と異なる。	標準語と異なる方言もある。
p.180 表1 順接型の行	全文の内容を条件とする	前文の内容を条件とする
p.193 13行目	電話がかかってきたりするだもん。	電話がかかってきたりするんだもん。
p.198 参考文献	http://www.jpfr.go.jp/j/japanese/survey/tsushin/research/200908.html	https://www.jpfr.go.jp/j/project/japanese/teach/tsushin/research/200908.html
p.200 8行目	武士や、花魁・お公家様	武士・花魁・お公家様
p.202 2行目	以下の「武士語」の後で	以下の「武士語」の中で
p.202 下から7行目	否定「ん(ぬ)」	否定「ぬ(ん)」
p.203 下から7行目	老人=上方語的 ⇔ 若者・壮年=東国語的	老人層=上方語的 ⇔ 若者・壮年層=東国語的
p.203	2つの四角の枠	削除
p.203 下から6行目	このように、老人は上方語、	このように、老人層は上方語、
p.204 下から6行目	4.1 ことばの性差について	削除
p.204 下から5行目	一般に、女性的表現は、	まず、女性的表現は、
p.206 下から2行目	敬語表現は自分よりも目上の人に	敬語は自分よりも目上の人に
p.207 1行目	また敬語表現+終助詞「わ(わね)」	また敬語+終助詞「わ(わね)」
p.209 下から8行目	1. 老人語・博士語、	1. 博士語・老人語、
p.209 下から6行目	起源は江戸時代の江戸語の形成に	博士語・老人語の起源は江戸時代の江戸語の形成に
p.212 コラム内表記を統一	言葉	ことば
p.212 13行目	明治	明治時代